

札幌市下水道事業中期経営プラン（H19～23）進行管理報告書（平成22年度決算版）概要

作成	建設局下水道河川部	資料
提出	平成24年3月5日	1-1

◎ 総括

中期経営プランの4年目であります平成22年度は、予定していた事業を着実に実施し、施設の維持管理や運転管理を適正に行った結果、多様化した下水道の役割をしっかりと果たすことができました。財政面においては、経済不況の影響などにより、下水道使用料収入が当初見込みよりも減少していますが、着実に経営効率化策を進めることで経費を削減し、22年度の資金残高は、当初見込みと比較して好転する結果となりました。今後も厳しい財政状況下にありますので、引き続き効率的な事業執行に努め、現行の下水道使用料の水準を維持しつつ、安定した下水道事業を継続してまいります。

1 事業計画 ～平成22年度

【1-1 衛生的で快適な生活の確保・維持】

- 札幌市には、約8,100kmの下水道管があり、この全てを平成13年度から24年度までの12年間で調査・点検する計画を立てており、22年度もこの計画に基づき、順調に調査・点検を実施し、総延長に対する調査率は82%となりました。また、過去の調査で見つかった異常か所については優先順位を付け、22年度は計画(800カ所/年)を上回る1,000カ所の修繕を実施しました。
- 処理施設については、適正な運転管理や計画的な修繕の結果、安定した運転を行い目標放流水質を維持し、良好な処理ができました。
- 部分的な修繕で対応できない施設については、計画的に改築を行っており、22年度の下水道管改築率は30.7%となり、目標値に向けて引き続き事業を進めます。

(主な指標) …H20～22は実績値、H23は目標値

管路調査率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	49%	65%	74%	82%	92%	

定義：調査済み延長(H13～)÷総延長

管路修繕か所数	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	3,878	5,875	6,970	7,970	7,878	

定義：本管修繕か所数

目標放流水質(BOD)の達成率(目標：70%)	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	93%	93%	94%	95%	—	

定義：達成測定回数÷全測定回数

下水道管改築率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	28.8%	29.9%	30.3%	30.7%	32.3%	

定義：改築が必要な老朽管延長に対する達成度

【1-2 暮らしの安全と安心の確保】

- 大雨による浸水被害を防ぐため、雨水がすみやかに流れるように下水道管(雨水拡充管)を整備した結果、都市浸水対策達成率が86.8%となりました。また、大規模施設の雨水流出抑制対策として、「札幌市雨水流出抑制に関する指導要綱」を策定しました。
- 水再生プラザ(管理棟)の耐震診断率は100%となり、診断対象である9か所全ての水再生プラザの診断が終了しました。

(主な指標) …H20～22は実績値、H23は目標値

都市浸水対策達成率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	84.9%	85.9%	86.4%	86.8%	86.5%	

定義：雨水排水のための下水道計画に対する整備達成度

水再生プラザ(管理棟)の耐震診断率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	22%	78%	89%	100%	100%	

定義：診断対象施設のうち耐震診断を実施した割合

【1-3 うるおいと安らぎのある街の実現】

- 合流式下水道では、雨の日には下水が処理されずに河川に流れ出ることがありますが、その改善対策として豊平川雨水貯留管の整備を進めました。また、下水中のごみが河川へ流れ出るのを防ぐための吐口スクリーン設置率は34%となり、目標値に向けて順調に整備を進めました。

(主な指標) …H20～22は実績値、H23は目標値

合流式下水道対策率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	32.9%	32.9%	32.9%	32.9%	32.9%	

定義：河川へ流出する汚れに関して法令基準を守るように対策した区域の割合

スクリーン施設設置率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	10%	26%	33%	34%	45%	

定義：対策実施済み吐口数÷総吐口数

【1-4 循環型社会の構築と環境負荷の低減】

- 汚泥の処理は、西部スラッジセンターと東部スラッジセンターの2カ所で集中的に処理しています。22年度は、茨戸水再生プラザと西部スラッジセンター間の汚泥圧送管等の整備を行い、汚泥処理の更なる集中化のための準備を進めました。
- 発生した下水汚泥は、セメント原料化やコンポスト化などに100%リサイクルしました。また、処理水を有効利用した新たな雪対策として、新琴似北流雪溝の供用を開始しました。
- 設備を更新する際にエネルギー効率のより良い設備にしたり、運転方法を工夫したりして、エネルギー使用量の削減に努めた結果、主要施設におけるエネルギー使用量の原単位は21年度と比較して4%の減となりました。



西部スラッジセンターの外観

(主な指標) …H20～22は実績値、H23は目標値

下水汚泥リサイクル率	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	100%	100%	100%	100%	100%	

定義：リサイクルされた汚泥量÷総発生量

エネルギー使用原単位の削減率(目標:前年度比1%減)	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	3%減	4%減	±0	4%減	—	

定義：主要施設における「エネルギー使用量÷高級処理水量等」(＝原単位)の前年度比

2 財政計画 ～平成22年度

【2-1 安定した経営のための基盤強化】

●効率化策への取組

茨戸東部中継ポンプ場及び手稲中継ポンプ場遠方監視化を実施し、本年度をもって全ポンプ場の遠方監視化が完了しました。また、東部スラッジセンター2号炉稼働開始により、汚泥処理について一層の集中化が図られています。

●職員定数

22年度職員定数は523人となり、計画期間内目標値を達成しました。

●主な広報活動

- ・下水道科学館の年間入館者数 … H22：43,254人(H21：37,930人)
(※施設見学バスの導入や、科学館フェスタの来場者数が大幅に増加したことによる入場者増)
- ・ホームページの充実 … H22：ホームページリニューアルを実施
- ・パンフレット「札幌市の下水道」(平成22年度版)の発行

(主な指標) …H19～22は実績値、H23は目標値

職員定数(人)	計画前	実施済年度				目標年度
	H18	H20	H21	H22	H23	
	555	551	537	523	523	

【2-2 中期財政見通し】

【H19～22 主要収入支出総括表 ※4年間累計値】

(単位：億円)

	プラン	決算	差引
収入			
下水道使用料	849	831	△18
一般会計繰入金(収益・資本)	951	905	△46
企業債の発行	555	475	△81
支出			
維持管理費	677	627	△50
建設事業費	656	574	△82
元利償還金	1,293	1,253	△40
累積資金残高(H22末)	36	60	24
企業債未償還残高(H22末)	3,160	3,079	△81

※億単位で端数処理をしているため、差引が一致しない箇所がある

【収入】

- ・不況等の影響による下水道使用料収入の減少
- ・経営効率化策等による維持管理費の縮減等に伴う一般会計繰入金金の減少
- ・建設事業費減少に伴う建設企業債発行額減少

【支出】

- ・経営効率化策等による維持管理費の縮減
- ・低落札率等による建設事業費の減少
- ・公的資金補償金免除繰上償還活用による支払利息の減少

【累積資金残高】

当初見込みと比べて約24億円の好転

【企業債未償還残高】

当初見込みと比べて約81億円減少